

良き後輩そして同僚

私は、今年の3月末日をもって雇用促進事業団を退職し、現在、大分県立佐伯高等技術専門校の方へ4月1日から勤務することとなりました。この誌面をお借りして、雇用促進事業団の数多くの皆様には大変お世話になり感謝しています。大変ありがとうございました。

さて、このリレートークの依頼を2月に言われ、自分自身が年度末は忙しいというのが予想できたものの、芹澤氏（芹ちゃん）の依頼ということで断れずに引き受けてしまいました。3月30日が最後の勤務となり、31日に転地へ引っ越し、翌日から勤務し、2日後には1週間の職員研修というスケジュールの中、いつのまにか新組織へ入り込んでしまっている自分を不思議に思い、また事業団という職場を想い出し複雑な気持ちになりました。このような事情で、花見をすることもなく、3、4月が過ぎていってしまいました。自己紹介からして申し訳ありませんが、現在、大分県の佐伯市という所に住んでいます。自分自身が大分県の県北の出身であり、最南端の佐伯市にはかつて一度も行ったことがなく、不安と期待を持って赴任しました。釣りが趣味でない私にとっては、あまり良い場所ではなく、周りからはここへ来たら釣りをするしかないと言われ、これまでネオン街で楽しんできた趣味を変更し、ここでは自然に親しむ趣味を何かひとつ見いだそうと思います。佐伯市のPRをするわけではありませんが、海にも山にも面し、野菜や特に魚が安くおいしく食べられるという大きなメリットがあります。車で20分ほど行けば、マンボウという珍しい魚を50数匹飼育しており、大変自然に満ちあふれた静かなところがあります。

家族の近況を言えば、私は職員住宅から職場まで

車で1分という距離にあり、昼食も食べに帰れるという、今までには考えられない生活を送っており、妻の方は5年間のペーパードライバーから脱皮し、ポリテクセンター関西の中村夫人からいただいた自動車を、危なげな運転をして私をヒヤヒヤさせており、4歳の長女は友達がまだできないせいか、外にあまり出ず家の中でゴロゴロしており、1歳の長男は環境が変わったにもかかわらず、いつもニコニコして何が起きたのかわけがわかっていません。3人から見れば、うらやましい反面安心させてくれます。

では、私のことはこの辺にして、芹ちゃんとの出会いを述べたいと思います。今思えば、彼はシャ乱Qのつくにそっくりです。彼とは訓大寮での2年間同部屋であり、機械科の先輩・後輩そして研究室の先輩・後輩という親しみ深い関係でした。同じ年齢ですが、私のことを先輩と呼んでくれる唯一の人物です。変な話ですが、人生の中で岐路に立つのは、大学進学・就職・結婚そして退職というプロセスの中で、私は彼の人生の2つ（就職・結婚）を決断させてしまいました。相談されたということもあるのですが、今思えば軽率だったなと思うことがあります。なぜならば、彼に事業団に入ることを勧め、同じ事業団に入団した仲ですが、勧めた自分自身が去ってしまったことは、正直言って彼に申し訳がないと思います。結婚に関しては、ある言葉を私が言ってしまっただけで、彼は結婚を決意してしまいました。しかし、今では一人の女の子も生まれ幸せな生活を送っているようで、結果的には非常にうれしく安心しています。

彼との大学生活の中で、一番記憶深いのは、お互い彼女を探し求めて旅行・ハイキング・酒飲み等に行ったことです。彼は私より積極的でいろいろなど

ころに顔を出し、チャレンジ精神豊富な人物です。彼女を作るために、彼から学んだことが1つあります。それは、出会ったときにあえて電話番号は聞かずに住所と名前を聞き、その数日後、出会った頃の思い出と次回会う約束等、そして最後によかったら電話または手紙をくださいとあえて手紙に書くテクニックを学びました。私は、あいにく字が下手なため、彼の達筆な字で常に書いてもらったことを覚えています。このパターンでいけば、ほとんど連絡の来なかったことはありません。なぜならば、電話をかけるのが手っ取り早いのですが、突然のことでおそらく返事もできないと予想し、失敗に終わる可能性が高く、手紙であれば昔の恋文ではありませんが、相手にとっては感動するものが何かあると思われました。後は成功するかしないかは本人の努力です。正直言って、私はこのやり方で今の妻と結婚するこ

ととなりました。良かったかどうかはわかりませんが、彼から学んだものは大きく、深く感謝しています。彼女の作り方のみを学んだように聞こえますが、彼の人間性豊かな性格、そしていつも明るく素直で、相手の気持ちに立って考えるという態度には感心させられることが多々ありました。私にとって、上下関係がある中でも、親しみやすさをもって接することができた唯一の人物だと言えます。実を言うと、彼の静岡の実家へ遊びに行ったとき、ご両親を見て彼の性格は親譲りだと思いました。

最後に、現在遠く離れている同士ではありますが、学生時代の少し幼い気持ちだけは失われないうれから指導員生活をお互い頑張っていこうと思います。

次のリレートークはポリテクカレッジ滋賀の江口君です。彼は大学時代の友人で、現在、国際協力等の分野でも活躍しているおもしろい人物です。ま

リレートーク【2】

京都市工業試験場塗装技術研究室 大藪 泰

職業訓練大学校塗装科

北海道立工業試験場勤務の塗装科1期先輩の岩越さんから電話があった。この世にリレートークとやらが存在するから、何か書けと。職業訓練大学校塗装科は封建制度、年功序列、敬老精神等が徹底しているので、いやな先輩からの頼みもにこにこ笑って……はい！ わかりました！

卒業して20年以上になる。卒業当時は職業訓練大学校であり、卒業学科は塗装科である。私はこの名前が好きだ。職業訓練だとか塗装だとかその具体性のある名前が好きだ。そして誇りにしている。私の在学中は溶接科や板金科など美しい名前の学科があった。一方、当時校名変更運動もあった。×工業大学校とか、×技術大学校等いくつかの候補もあったと記憶する。なぜそのような

運動が起こったかは知らないが、ひとつに校名の泥臭さが当時の学生に嫌われたこともあったかもしれない。私はこの運動に大きな疑問を持っていた。われわれは職業訓練大学校を選んで入ってきたのだ。何を今さらと思った。×工業大学校や×技術大学校なら全国津々浦々どこにでもあってもいい。職業訓練大学校は唯一であり、われわれはその教育訓練の内容を選択して入学したのだ。

職業訓練大学校は職業訓練指導員の養成が大きな使命であったが、同時に「科学、技術、技能」の三位一体を実践する貴重な教育機関であった。実習で刷毛を持ち、スプレーガンを持ち塗装する。座学では使用した塗料の硬化反応を化学的に学ぶ。さらに実験では使用した塗料の物性を測定する。大学の方

リキュラムで刷毛を持ち塗装作業をする。それがうれしくて、職業訓練や塗装という名前がさらに好きになった。4年生では卒業制作と卒業研究の二段構えであった。何と贅沢な大学か。職業訓練大学の学生に対する最高のもてなしであった。

卒業していくつかの仕事をした。いずれも職業訓練とは全く関係のない職業である。そんな門外漢の私から母校をみて、無責任なことをいくつか言ってみよう。

ひとつは卒業生の一人として反省と後悔の意味を込めて…。現在塗装科はない。カリキュラム上その名残が少しあると聞く。なぜ塗装科がなくなったのかは知らない。塗装科がなくなると、われわれ卒業生は何もできなかった。なくなると知らされたとき、そうかなくなるのか。職業訓練大学から職業能力開発大学校が変わるとき、なぜ職業訓練大学校ではいけないのか考えた。しかし、そうかわるのか…。結果、卒業した大学の名前も学科も私にはない。

一方、通産省が匠の技術・技能を科学的に解明するプロジェクトをスタートさせると聞いた。朝刊の一面を飾った。日本の工業力はその技術・技能の匠さにあり、これを科学的に解明することで、日本の工業力を再び世界のトップに、とのことらしい。これこそわが母校が、いの一にやるべきことで、他の追従を許さない確固たる地位にあるべきことではないか。また失業率が5%近くなっただけ、失業者対象に職業訓練を国立大学で行うとの計画があると聞く。これも朝刊の一面を飾った。なぜここで職業訓練の老舗の名前が出てこないのか。門外漢の私が勝手なことばかり、無責任に誤解を恐れずしゃべってしまった。もちろん「科学、技術、技能」の三位一体を研究・実践する方々や、失業者に対して職業訓練を休日返上でされている方々も数多くいらっしゃると思う。しかし卒業生の私には明確には見えてこない。そして卒業学科がなくなり、校名が変更されて、職業訓練大学校つまり「訓大」がなくなりつつあると思うのは、私個人の感傷と郷愁のせいだけだろうか。

卒業して20年以上になる。塗料と塗装の仕事を



している私は関連の方々によく言われる。訓大塗装科がなくなって残念だと。したがって私はいまだに職業訓練大学校塗装科という金看板で仕事をしている。

素人が何を言う、とお思いの方が大勢いらっしゃるであろう。それでは、この辺でもっと能書きをたれる塗装科同期（明電ケミカル(株)）の佐久間城治にリレー…。